

国際交流員のコラム

●最南端にある最先端●

—鹿児島県国際交流員 スノーデン・ジョセフ（イギリス出身）—

南の宝箱，鹿児島。魅力がこんなにたくさんあるにもかかわらず，人生初の日本旅行の計画は，東京や京都，大阪などを重視する傾向のある，外国人観光客には見落とされがちです。

鹿児島県は首都から遠く，本土の最南端に位置しているからでしょうか。でも，都道府県の中で一番注目を浴びているとは言えなくても，鹿児島は紛れもなく特別です。なぜかというところ，鹿児島県は何世紀にもわたり，最先端でもあります。日本の中でも珍しいほど，先駆的な県です。

想像してみましょう。今は1865年で，薩摩藩の10代の子であるあなたは，羽島の岩だらけの海岸から，海上はるか彼方の水平線を眺めて，これから乗る船の到着を待っています。渡航辞令書では，薩摩の離島の調査としての辞令ですが，本当の使命は違います。鎖国下で，見つければ死の危険を冒してまでも，密航に出発し，数ヶ月をかけて地球の反対側にある異国にたどり着き，そしてそこで日本のためになる知識を身につけることです。



羽島の海



地球の反対側へと
薩摩留学生は日本を出発しました

これはまさに薩摩^{スチューデント}留学生の実話です。西洋技術などを勉強するために，家族に別れを告げ，英国へと旅立ちました。実家を後にし，想像したこともない場所や人，技術などに出会いながら，その勇気のある若者たちは何をどう感じていたのか，私自身もよく思います。

旅の中で目にした多くのことは彼らを驚かせたでしょう。香港の夜空を照らした無数のガス燈，「その速きこと疾風の如し」と驚嘆されたエジプトを縦断する蒸気機関車，そして最終目的地のロンドンでは，世界初の地下鉄。なお，英国が敷設した，インドのボンベイ（現・ムンバイ）までつながっていた海底電信ケーブルのおかげで，ロンドンでの宿泊施設の手

配は英国到着のだいぶ前から済んでいました。これは、羽島でいつ出航できるのかわからずに船を長らく待っていた留学生たちにとって、印象的だったことでしょう。

でも、薩摩留学生の話は決して英国で終わりませんでした。



薩摩留学生たちの集合写真

留学生の多くが帰国し、日本の近代化に重要な役割を果たしました。寺島宗則は神奈川県知事として、東京と横浜を結ぶ日本初の電信機の工事を成功に導くことで、「電信の父」と呼ばれるようになり、外務大臣にも就任しました。五代友厚は大阪経済界の重鎮になり、大阪商工会議所や大阪証券取引所などを設立しました。町田久成は、大英博物館から刺激を受け、東京国立博物館の初代館長に就任するなど、薩摩のこの先駆者たちは日

本の未来を切り開きました。

今も、薩摩留学生の物語はいちき串木野市にある薩摩藩英国留学生記念館で語り継がれています。まさに留学生たちが出発した地に位置しており、この記念館は歴史的な遺物であふれています。鹿児島がなぜ日本近代化の原点になったかを知りたい方には必見です！



薩摩藩英国留学生記念館



しかし、鹿児島県の人々の開拓者精神は歴史に限られていません。未だに感じられます。今日も鹿児島の先駆者たちは上を向いています。

宇宙航空研究開発機構（JAXA）は1960年代以降、鹿児島県に位置している2ヶ所のロケット発射場からロケットを打ち上げ、追跡しています。1つは大隅半島にある内之浦宇宙空間観測所で、もう1つは種子島にある種子島宇宙センターです。人工衛星を軌道に投入できる打ち上げ施設は全国にも、この2ヶ所しかないということで、鹿児島県は「宇宙への玄

関口」でもあります。実は、1970年から地球の周りを公転していた日本初の人工衛星は、打ち上げた地域に因んで「おすみ」と名付けられました。

このような打ち上げは現在も続いています。私は2023年9月7日に、一瞬前種子島から離陸したロケットが天に向かって空を横切るのを、鹿児島市にある自分のアパートで見っていました。数週間、その余韻に浸っており、今もロケットの迫力を鮮明に覚えています。



それから数ヶ月後、私が見たそのロケット物が月

鹿児島の空を飛んだロケット

面に降り立ちました。鹿児島県の離島から打ち上げられた月探査機の「SLIM」（小型月着陸実証機・スリム）が月面着陸に成功し、世界で5カ国目という快挙を成し遂げたのです。



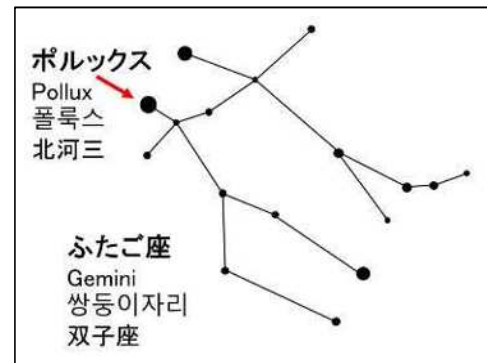
内之浦宇宙空間観測所にある
パラボラアンテナ(左:20m, 右:34m)

月だけにとどまりません。

内之浦宇宙空間観測所の34mパラボラアンテナは1998年に完成しましたが、その頃に送信された電波は約35年間、宇宙空間を通過して光速で突き進んでいます。太陽系から一番近い恒星を通り過ぎたのは2003年でした。そして、去年、ふたご座の最も明るい星（ポルクス）までたどり着いたはずですが、今度、星空を見上げる機会があれば、ふたご座を探してみたいかがでしょうか。鹿児島県を起源とする電波信号がこんなに遠く離れた場所まで届いています。

内之浦宇宙空間観測所は一般の人でも入れるため、私も見学させていただきました。

アンテナを見上げると、周りは静かで電気機器のハム音以外、何も聞こえません。意外かもしれませんが、この静かな場所では、歴史が創られており、新たな道が切り開かれています。大隅半島のこの起伏のある丘陵地帯で、鹿児島県の開拓者精神は今も息づいています。



内之浦宇宙空間観測所